

事業名	成人教育講座「生活を楽しむ 竹細工の魅力」						
ジャンル	家庭教育	・	青少年教育	・	成人教育	・	団体育成
日程	令和3年12月19日(日)	講師	佐倉竹芸保存会	参加費	500円(材料費)		
対象者	一般	参加者数(延べ)	31人(審議委員等を含む)	募集方法	チラシ・広報・ホームページ		
趣旨	新型コロナ禍により自宅内で生活する時間が増大する中で、伝統技法の研究・創作活動に取り組む「佐倉竹芸保存会」を講師として招き、竹芸の魅力を語っていただき、その作品を鑑賞するとともに、実際に会のメンバーの指導で工作体験を行うことにより、身近な素材を用いた物づくりの楽しさを学び、伝統文化への関心を高め、自らの生活を豊かにする新しいライフスタイルを考える場とする。						
内容	「佐倉竹芸保存会」についてのお話と、パワーポイントを使った「竹」の特性に関する講義、グループ分けをして「握り籠づくり」の工作体験を行う。なお、会場内に保存会メンバーの作品を展示し、伝統技法のすばらしさを鑑賞する。						
工夫	身近にある素材を用いた、物づくりの楽しさを体感する講座とする。伝統技法に対する理解や関心を高め、後継者の育成に結び付ける。竹細工を通じて、自然の良さ・大切さを感じる場とする。						
成果	募集開始数日にして、定員の30人に達したことから、市民の関心が高かった講座であるといえる。実際の参加者に行ったアンケート調査の結果においても、満足及びやや満足は87パーセントと高い満足度を示している。竹細工や伝統工芸に関心を持ったとする回答が93パーセント、物づくりをしてみようと思った人も90パーセントを占めており、参加者の意識に変化がみられ、それぞれの今後の活動が期待される。						
課題	工作体験として「握り籠づくり」を行ったが、5~6人のグループに1人の指導者の配置では手が行き届かない場面がみられ、指導者の配置を2人とすべきであったと思われる。						

【公民館による事業評価】

項目	評価	視点
必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> 公民館が行う必要があるか。 市民や利用者のニーズに合っているか。 目的や役割が薄れていないか。 事業の休止・廃止した場合の影響は大きいのか。
優先性	A	<ul style="list-style-type: none"> 事業の優先度は高いか。
公平性	A	<ul style="list-style-type: none"> 対象者に情報は流れているか。 受益者負担はあるか(実費・教材費)
有効性	A	<ul style="list-style-type: none"> 期待通りの成果が得られているか。 さらに成果を高めるためにやり方の見直しは必要か。 市民の満足度は高いか。
効率性	A	<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性はどうか。 事業運営に学習者が参画しているか。 他事業との統合は考えられるか。
総合評価	A	<p>A：適切で成果が得られている。 B：課題あり、成果はある程度ある。</p> <p>C：課題あり、成果があまりない。 D：成果が得られていない。</p>
特記	講座終了後、佐倉竹芸保存会の活動に対して連携・支援していきたいと申し出る参加者が現れた。	

《凡例》 良い ← A B C D → 良くない	《判定例》 <table border="0"> <tr> <td>A } A</td> <td>A } A</td> <td>A } B</td> <td>A } A</td> <td>A } A or B</td> </tr> <tr> <td>A } A</td> <td>B } A</td> <td>B } B</td> <td>A } A</td> <td>B } B</td> </tr> <tr> <td>A } A</td> <td>A } A</td> <td>B } B</td> <td>A } A</td> <td>B } B</td> </tr> </table>	A } A	A } A	A } B	A } A	A } A or B	A } A	B } A	B } B	A } A	B } B	A } A	A } A	B } B	A } A	B } B
A } A	A } A	A } B	A } A	A } A or B												
A } A	B } A	B } B	A } A	B } B												
A } A	A } A	B } B	A } A	B } B												

次年度展望	②	①：事業拡大 ④：目的達成により終了	②：現状規模で継続 ⑤：統合・改善・その他	③：事業縮小
-------	---	-----------------------	--------------------------	--------

令和3年度 中央公民館成人教育講座

「生活を楽しむ 竹細工の魅力」実績報告

- 1.企画の背景 令和3年は、昨年引き続き新型コロナウイルス感染症対策に追われた年であり、緊急事態宣言も繰り返し発令されて、市民生活に大きな影響を及ぼしました。このような現況下で市民ひとり一人がいかに関生活を楽しむのかを焦点に、企画検討を行いました。
- 2.講座の目的 伝統技法の研究・創作活動に取り組む「佐倉竹芸保存会」を講師に招き、竹芸の魅力を語っていただき、その作品を鑑賞するとともに、実際に会のメンバーの指導で工作体験をしていただくことにより、身近な素材を用いた物づくりの楽しさを学び、芸術文化を愛し、自らの生活を豊かにするきっかけづくりの場とする。また、保存会メンバーの生きがいづくりにも貢献したい。
- 3.保存会との打ち合わせ 講師の協力依頼、講座内容を検討するため、保存会と3回にわたり打ち合わせを行いました。また、材料となる竹の切り出し(11/16)に参加しました。
- 4.講座の内容 「佐倉竹芸保存会」の概要説明とパワーポイントを使った「竹」の特性に関する講義、グループ分けをして「握り籠づくり」の工作体験、「皮ひき」体験コーナーの設置、保存会メンバーの作品展示（講座の流れについては、別紙参照）
- 5.実施期日等 令和3年12月19日（日）10：00～12：00
会場は中央公民館大ホールを使用（密を回避するため）
募集人員 30人
申し込みは、電話またはメール
参加費 500円（握り籠用の材料費）
※節割にした竹ひごを保存会が事前準備
- 6.周知方法 11月15日号こうほう佐倉、ホームページ、ポスター・チラシ配布（公民館、図書館、コミュニティーセンター等）

7.実施状況 講座申込は数日で定員一杯となり、開催当日は2人欠席で、1人が親子参加となったため、全員で29人。これに公民館運営審議会委員2人、他館の公民館職員1人が参加し、総計32人が講座を受講しました。

保存会会長による会の概要説明に続き、副会長がパワーポイントを使って「竹」の特性について詳しく講義。その後、参加者を5～6人のグループに分けて、各グループに保存会のメンバー1人が付いて、「握り籠づくり」体験を行いました。

初めての体験に戸惑う参加者も少なくなく、全員の体験（一部参加者は「皮ひき」体験も行う）が終了したのが12時15分と、予定の時間を15分オーバーしてしまいました。

なお、当日は市広報課の映像班が来て、記録映像の撮影（ケーブルテレビ 296 で1/17から1週間放映予定）がありました。

8.アンケート調査 参加者に行ったアンケート調査結果（32人）は次の通り。

① 参加者年齢

20歳以下	40歳台	50歳台	60歳台	70歳台
2人	3人	6人	9人	12人

※1人は小学生

② 男女別人数

男性12人 女性20人

③ 講座を知ることができた媒体（複数回答あり）

ポスター・チラシ	こうほう佐倉	ホームページ	家族等	フェイスブック
3人	21人	3人	4人	2人

④ 講座に対する満足度

満足	やや満足	やや不満	どちらともいえない
24人	4人	3人	1人

⑤ 竹細工や伝統工芸に興味を持ったか

持った	持たない	どちらともいえない
30人	0人	2人

⑥ 自分で物づくりをしてみようと思ったか

思った	思わない	どちらともいえない
29人	0人	3人

⑦ コロナの影響により在宅することが多くなったか

多くなった	少し多くなった	変わらない
23人	8人	1人

⑧ 自由意見

- ・またやりたいです。
- ・結構、想像していたよりも難しかったです。頭を使いながら作成して、頭の体操にもなりましたし、夢中になれて楽しかったです。
- ・本格的な内容で、とても面白かったです。
- ・とても丁寧な御指導、ありがとうございました。難しかったです。竹の事もよくわかり、勉強になりました。
- ・とにかく難しかったです。もう少し時間が必要。
- ・以前から竹が好きでした。とても良い機会をありがとうございました。また体験したいです。
- ・2時間は短いと感じた。3時間あれば良い。是非、保存会を見学したい。
- ・思いのほか力があるので驚いた。丁寧なご指導ありがとうございました。
- ・草ぶえの丘の活動を見学したい。
- ・とても楽しかったです。先生方もとてもやさしかったです。
- ・とても難しかったです。講義がよくわかってよかったです。
- ・ひご作りも楽しかった。
- ・この様な成人向け講座よろしくをお願いします。

9. 評価と課題

今回は身近な「竹」を素材にした伝統工芸に触れ、実際に工作体験をする講座としましたが、アンケート結果のとおり参加者の満足度は高い評価を得ることができ、また、伝統工芸に対する関心も高まり、自分で物づくりをしてみたいと考える者が大半を占めていることから、参加者自身の意識変化が認められ、適切な講座内容であったと考えられます。これは、コロナの影響による在宅時間の増加から、閉塞感と孤独感が高まり、日常生活に不安や不満も高まっていることと関連する

ものと思われます。

課題としては、「握り籠づくり」体験について、「難しい」「時間が足りない」などの声があることから、グループの指導者は1人ではなく、2人を配置すべきであったと思います。また、参加者1人から子供の参加を認めてほしいとの要望があり、1人だけの増加であることと、子供の反応も見てみたいという思いから親子参加を許可しましたが、別の参加者より成人講座に子供が参加することの是非を問う意見もありましたので、今後の事業の実施に当たっては慎重に対応していきたいと思います。(ちなみに子供は立派に握り籠を作り、講座を楽しんでいた)

10.特記事項

竹細工の伝統工芸を後世に伝えていくためには、不断の努力と活動の場の確保、後継者を育成することなどが重要となりますが、参加者の中から保存会の活動に対して連携・支援を申し出る者が現れ、今後の活動が期待されるとともに、後継者の育成に繋がっていくことが望まれます。

【講座の流れ】

① 公民館職員から講座開設の目的を話す

参加者総計 32人



② 保存会会長より会の概要説明

- ・ 創立は昭和57年
- ・ 会員数 24人
- ・ 毎週火曜日、旧増田家住宅で活動中
- ・ 県展など各種展覧会に出品



③ 保存会副会長から「竹」の特性に関する講義

- ・竹は「草」か「木」か？
- ・竹の種類
- ・竹の成長
- ・根の深さ
- ・竹の強さ など



④ グループ分けして「握り籠づくり」体験

- ・5～6人にグループ分け
- ・グループに1人指導者





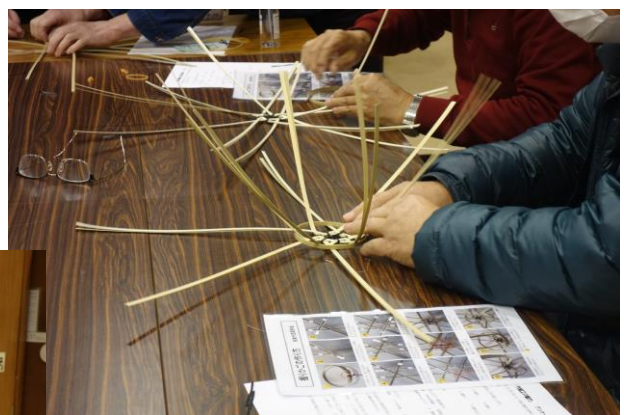
●タガとなる輪を作る



● 6本のヒゴを放射状に並べる



● ヒゴを輪の中に通し、土台の形を整える



- 立ち上げたヒゴを差し込みながら、籠の形に成形する



- 落としを入れて、「握り籠」の完成



⑤ 会員の作品と制作の工程パネルを展示



① 伐る

 11月初旬に節間が長くて節の低い2年もの真竹を探して伐ります

② 切る

 必要な長さに切ります

③ 皮を引く

 皮をむくとすべりになって編みやすく、また、良く染まります

④ 割る

 印を付けて必要な幅で割ります

④ 割る

 印を付けて必要な幅で割ります

⑤ 裂く

 幅や厚みを「なた」で裂きます

⑥ 削る

 くり小刀で幅や厚みを削ります

⑦ 幅を揃える

 同じ幅になるように揃えます

⑦ 幅を揃える

 同じ幅になるように揃えます

⑧ 面を取る

 角をとって丸くすると編みやすく、仕上がりがなめらかになります

⑨ 厚みを揃える

 正確に同じ厚みに揃えます

⑩ 編む

 編み方には、四つ目・六つ目・八つ目・輪編・網代・ご目・網目・扇編み等色々あります

⑨ 厚みを揃える

 正確に同じ厚みに揃えます

⑩ 編む

 編み方には、四つ目・六つ目・八つ目・輪編・網代・ご目・網目・扇編み等色々あります

⑪ 染める

 ひごや製品の段階で染めます

⑫ 塗る

 うるしやカシューで仕上げます

令和3年度 中央公民館成人教育講座

「生活を楽しむ 竹細工の魅力」



古くから私たちの生活の中で使われてきた竹。強度と柔軟性を合わせ持つ竹は、ヒゴ状に加工して、丹念に編み上げることにより、様々な用途・形状を持った容器を作ることができます。それは単なる生活用品ばかりでなく、伝統技法を駆使した美術工芸品というべき作品も数多く存在しています。

今回、佐倉市内で活動をしている「佐倉竹芸保存会」(昭和57年創立)のご協力により、時を超えて受け継がれてきた竹芸の魅力を語っていただくとともに、参加者の皆様に工作体験をしていただきます。

日時 令和3年12月19日(日) 10:00~12:00

場所 佐倉市立中央公民館 大ホール (佐倉市鏑木町198-3)

対象 一般・30名(先着順)

参加費 500円(材料費)

申込み 電話またはメールで 〆切: 12月5日(日)

※電話 佐倉市立中央公民館 043-485-1801

メールアドレス chuo-public@city.sakura.lg.jp

保存会の概要
保存会の歩み
作品の出来るまで
第2回 作品展 2005年 8月
第3回 作品展 2008年 5月
第4回 作品展 2011年 5月
第5回 作品展 2013年 5月
第6回 作品展 2015年 5月
第7回 作品展 2017年 5月
第8回 作品展 2019年 5月
京葉銀行機関紙 さすな 2015/4
竹工芸リンク集
トビタテ
累計: 11670 件



活動拠点: 〒285-0003 千葉県佐倉市飯野820 草ぶえの丘「畑田家住宅」
 (草ぶえの丘正門より約150m先右側 長岡門付孝昌(白民家)
 夏季の8月と年末年始を除く 毎週 火曜日 9時半～15時
 問合せ: 総務 音(びか) 043-484-4865 080-5049-0103
 メール: y_suga_3108_2@plum.plala.or.jp



「竹」のお話し

竹は「木」か「草」か？

竹は、「木」か「草」か意見が分かれる(イネ科竹亜科)
 アジアの温帯・熱帯地域に多く、北海道には生息しない

中空を支える節

軽さの秘密は中空構造、強さの秘密は節があること
 風の強いところで成長すると節間が短かくなる
 「節」は左右で伸びてきた繊維が交差して作られる

竹の種類

真竹、孟宗竹、破竹、篠竹(女竹)、魯甲竹、金明竹...

竹の成長

60cmを過ぎると、約60箇の節のすく上にある成長帯が
 一斉に伸び、1.1m/日が記録。世界一成長の早い植物

竹林全体が1個体(クローン)

地下茎でつながっていて、縦延長は10~30km
 傘をさして歩ける程度が、良い竹林とされる
 約60年(孟宗竹)~120年(真竹)で花が咲いて枯死する

根の深さ

根は、地中に30cmほどしか落ちない
 竹の侵入を防ぐには、深さ30cmほどの板で十分
 最近では、ビルの屋上に植えて省エネが流行

だけのこ

約10日間(旬)で成長して竹になるので「節」の漢字
 だけのこは、1日に約20ℓの水を飲む(成長すると約2ℓ、
 頭の毛が親の方を向いているので、そちらを握るのがこつ

強さは鉄の1.5倍

軽くて強いので、レーシングカーやロケットにも利用
 「火入れ」をすると強くなり、しなやかさが増す
 軽さ、強さ、しなやかさで鉄よりも優れた素材

伐るのは11月初旬

寒くなるまで凍結を防ぐために甘くなり、虫が入る
 11月初旬に「2年もの」を伐り出し、保存して使う
 1年ものは根っこに皮があり、3年以上は、やや黄色い
 「節」のおかけで、保水性は良く、半年以上新鮮

油抜きをして保存

炭火で焙るか、熱湯で20~30分煮てから油を拭き取る
 天日に晒すと高級な「白竹」になり、長期保存が出来る